



すが わら あきら
菅原 明
(日本共産党)

- 衣川診療所・前沢診療所の無床化の根拠は
- 衣川総合支所建設を早急に
- 前沢小学校統合に係わる課題策を

質問 衣川・前沢診療所の無床化案が、本年度中の策定を目指す、市立病院・診療所改革プランのたたき台で示されたが、無床化にする根拠は何か。5月に開催された市政懇談会で報告しなかったのはなぜか。市長は両診療所を今後、どのようにしようとしているか。

市長 このままでは市の医療体制が崩壊してしまうという危機感を持っている。前沢・衣川診療所は19床ずつで、現在、前沢は常勤医師1人、衣川が常勤医師と臨時医師各1人が入院診療を担っている状況だが、休床化で外来診療など、一次医療施設としての機能を充実させていきたい。

質問 衣川区の総合支所建設について、衣川地域協議会との協議を重ね、早期の建設を進めるべきではないか。

市長 地元住民の意向を尊重することが重要であり、住民の意向集約、世論の形成を見極めた上で進めて行きたい。総合支所の整備は衣川のまちづくりに密接に関係するので、限られた財源の中でより良いものになるよう話し合い、速やかに実現を目指したい。



入院ベットの無床化が心配される衣川診療所

質問 平成26年4月から前沢統合小学校がスタートするが、放課後の児童の居場所づくり、スクールバスの運行計画と、バスの確保についてどのように検討しているか。

市長 放課後は、子ども達を地域に帰すことを基本として開設に向け準備を行なっている。統合後、放課後児童の居場所の利用希望調査を行なったところ、約350名の希望があった。放課後の学校から各施設までは、スクールバスによる移動を考えている。現時点で設置されていない地域についても、今後、利用希望調査を行ないながら、地元と協議を進めていく。

教育委員長 スクールバスの運行については、6台のバスを運行し、8コースを予定している。試乗調査をかさね、特に、低学年の子供達に配慮する形で検討していく。



あべ かよこ
阿部加代子
(公明党)

- リサイクル推進(小型家電リサイクル、資源ゴミ回収)を
- 胃がん検診(ピロリ菌感染へのリスク検診)の充実を

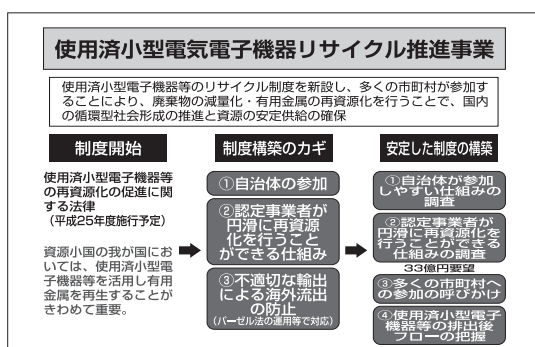
質問 本年4月より小型家電リサイクル法が施行となったが、自治体の取組みは任意となっている。当市の取組み状況は。

市長 認定業者が決まっておらず、回収品の買取り金額も判明していない状況であり、回収や保管に要する費用、運搬費用など、国の補助内容が示されていないことで現時点では整備されていないが、国の動向を見極めながら適切に対応していく。

質問 民間のスーパー等でも資源ゴミ回収に取組んでいる。買った所へ戻すという意識を持ち、市のリサイクル費用の削減を目指すべきではないか。

市長 市民、行政、民間事業者がそれぞれ役割を果たし、環境保全のパートナーとしてリサイクル、ゴミの減量化を推進したい。

質問 胃がんは毎年11万人が発症し約5万人が死亡している。胃がんの大きな原因はピロリ菌であり、今年の2月からピロリ菌を除去する薬の保険適応範囲



リサイクル推進事業の仕組み

が、慢性胃炎にまで拡大され胃がん予防が大きく前進すると期待される。血液検査でピロリ菌感染についてリスク判定を行う検査を導入する自治体が増えて来た。リスク検診導入の考えは。

市長 胃がんの死亡率は当市は男女共全国、県よりも高く早期発見のため検診受診率の向上が課題である。胃がん検診のあり方として従来の検診に加え、リスク検診の併用の有効性、実施に向けての課題の検討を行う。市民が安心して受けられる検診として検討を図る。